

東京福祉大学

2025年度 一般選抜4期 1科目型（3月12日）

選択科目 試験問題

（制限時間60分で各自選択した1科目を受験）

「現代の国語・言語文化」	・・・・・・・・	P.1～P.3
「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」	・・・	P.4～P.6
「数学Ⅰ・A」	・・・・・・・・	P.7～P.8

あなたの受験票に記載されている科目で受験すること。記載されている科目以外で受験しても無効になります。

※試験開始の合図があるまで、開いてはいけません。
※この問題用紙は試験終了後、持ち帰ってください。

受 験 番 号

氏 名

2025年度 一般選抜4期 1科目型（3月12日）

現代の国語・言語文化

※問題は次のページからです。

【問題】次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

「昔はよかった」とは進歩についてゆけぬ人の言葉である

「昔はよかった」と言う人は多い。うそと思う人は、テレビ、ラジオなどを視聴されるとよい。「昔はこのようなことはなかったが、今は……」という式の嘆きやヒ^①ハンをすぐ聞かれることになるだろう。約三千年程以前に書かれたバビロニアの粘土書版にも、「今日の若者は根本から退^a廃し切っている」、「以前の若者のごとく立ちなおることは、もはや望むべくもない」というようなことが書いてあるとか。どうして、人間は「昔はよかった」と言うのが好きなのだろう。

ア、いつも「昔がよい」のだったら、人間はどんどん悪化の一途^bをたどるわけで、バビロニア以来で言えば、現代人は相当に悪くなっているはずである。ところが、一方では人間はこの三千年の間に大いに進歩してきた、とも言うことができる。それではいったいどうなっているの、と言いたくなってくる。

「昔はよかった」と言う人の話を聞くと、大体は、「自分の子どもだった頃は」とか、「自分の青年時代は」とか、言うことになって、それに比べて「今の……」はなっていないというような非難につながってくる。「昔」と言っても、自分がかつて生きていた時代のことを言っているので、江戸時代とか鎌倉時代^{かまくら}に比して……などと話をする人は非常に少ないことがわかる。「昔」と「今」の比較をしているのではなく、要するに、「自分が若かったときは」あるいは「自分たちは」よかったと言いたいのである。

A「昔はよかった」論のもうひとつのトクチョウは、極めて一面的な論議^cになることが多いことである。たとえば昔は受験と言っても今のようにひどくはなく、自分たちの若いときはもつとのんびりとやっていた。第一、昔は今の受験生のようにやたらと競争心をかりたてることなく、もつと同級生に対しても思いやりがあった、ということになって、それが勢いを得てくると、まるで今の受験生はニンジ^③ョウがまったく薄く、それに比べると、「昔はよかった」という話になってくる。

イ、考えてみると、昔は大学に行きたくても経済的に行けない人が多かったから、競争も激しくなかったのである。あるいは、大学に行くとしても自分の家から通学できるところでないと経済的に不可能という人もあった。そんなわけで、有名大学の入学がやたらに難しくならなかったのである。そのことを考えると、今は昔よりも、多くの人が自分の行きたい大学を受験できるようになっただけ、「よくなった」と言えるはずである。

ウ、そのような「よい」ことがあるだけ、受験戦争が激しくなる、ということは生じている。しかし、全体としてみると、「昔はよかった」などと単純に言えないのである。このように少し考えてみると、一方的に「昔はよかった」などと言えることは、非常に少ないことがわかるであろう。

エ、「昔はよかった」という論議は、それでは今何をすべきか、今何ができるか、という点で極めて無力なことが多くことに気づかされる。「昔は受験がやさしくてよかった」と言ってみても、それではどうするか、ホウサ^④クがでて来ないのである。

こんなふうになると、「昔はよかった」論はどうも不毛なことが多いようだが、それにしてはよく聞かされるし、自分もつい言いたくなることが多いのはどうしてなのだろう。それはやはり、社会の変化に自分についてゆけなくなったときに、そう言いたくなるのではなからうか。

現在の若者の生き方についてゆけない。そのとき、それをそのまま認めるのは残念だったり、腹が立ったりするので、今時の若者はなっていない、というように言いたくなるのではなからうか。このために、人間は三千年も前から「今時の若者は駄目だ。だんだんと悪くなる」と繰り返しながら「進歩」してきたのではなからうか。

オ、人間は「進歩」などしない。テクノロジーなどは進歩しても、人間は悪くなる一方だ、という人もある。

そこまで「確信」している人に対しては、何をか言わんやである。筆者としては、「割に進歩などしていない」というところまでは譲歩^dできるが、悪くなってきたとまでは言えない、と思っている。その際は、頭書^eの言葉を変えて、「変化についてゆけぬ人」とテイセイ^⑤することになるだろう。そこまで譲るにしろ、「昔はよかった」と言いたくなったら、自分も「時代の変化についてゆけなくなったのか」と考えてみる必要があるだろう。

もつとも、人間は時に自ら慰めて、ほつとすることも必要なので、飲んだときなど仲間と一緒にあって、「昔はよかった」と嘆いてみるのも自分の精神衛生のためにはいいことだが、だからといってそれが別にどうということもないと知っておくべきであろう。

出典…河合 隼雄 著『こころの処方箋』新潮社 一九九八年（一部改変）

問一 本文中の傍線①～⑤の片仮名を漢字に直しなさい。

- ① ヒハン ② トクチョウ ③ ニンジョウ ④ ホウサク ⑤ テイセイ

問二 本文中の空欄ア～オに入る最も適切な接続語を次の語群①～⑤から選んで番号で答えなさい。ただし、同じ語を二度以上使ってはならない。

- 語群… ① もつとも ② しかし ③ もし ④ もちろん ⑤ 次に

問三 本文中の……線 a～e の言葉の意味として適切なものを下の㉠～㉤から選び記号で答えなさい。

- a 退廃
b 一途
c 論議
d 譲歩
e 頭書

- ㉠ 自分の意見をひっこめて他人の説に従うこと。
㉡ 本文の初めに書いたこと。
㉢ おとろえすたれること。
㉣ ひとすじの道。同じ道。
㉤ 互いに意見を述べて論じ合うこと。

問四 本文の内容と合致していないものを次の①～⑤の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 「昔はよかった」という言葉は、テレビ、ラジオでよく見聞する。
② 「昔はよかった」という言葉は、約三千年も前から言われていたようだ。
③ 「昔はよかった」と言う人の多くは、単に今と昔を比較して言っているのではない。
④ 「昔はよかった」の論議は、往々にして一面的になることが多い。
⑤ 「昔はよかった」と言う人は、最近は少なくなってきたので、よい傾向である。

問五 本文中の傍線 A の「昔はよかった」論について、あなたはどのように考えますか。本文の内容に触れながら、あなたの考えを四〇〇字から六〇〇字で述べなさい。

2025年度 一般選抜4期 1科目型（3月12日）

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ

※問題は次のページからです。

1 次の英文を読んで、以下の問いに答えなさい（固有名詞はそのまま使用してよい）。

When talking about long-term effort, we cannot leave out love. Years ago, I discovered a personal story that I want to share here because of its extraordinary human value and exemplification of personal drive.

It is the story of Dick Hoyt, a former American soldier, whose life changed radically in 1962 when his son Rick was born. He was born with cerebral palsy, could not speak, walk, or even move his hands and arms to express himself.

At the age of twelve, he began to communicate through a computer program that translates head movements into words and then sentences. The first words he said through this system were “Go Bruins!,” to cheer on his local hockey team.

This made his parents think the boy was interested in sports, so they decided to ignore the doctors’ view that Rick was condemned to live like a vegetable.

And here started the adventure.

Dick Hoyt decided to form a team with his son to train together and take part in the toughest marathons and triathlons in the country. To do that, he would push Rick in a cart as though he were a baby.

“Team Hoyt” became famous from the moment Dick and Rick did their first race in 1977. The public and participants were amazed to see this father carrying his son on a seat in front of him on his bike, then dragging him behind him in a boat while he swam, and finally pushing his wheelchair in the marathon events. Together, they took part in more than a thousand competitions, including around two hundred fifty triathlons and six Ironman events. That is, the 26.2 miles of a marathon + 112 miles cycling + 2.4 miles swimming. All this without stopping, with the weight of a growing son added to that of his equipment, and what’s more, setting some fairly impressive times.

How did Dick Hoyt manage to complete these superhuman events with Rick?

The only possible explanation is that he was driven by the power of love.

Dick wanted to get the message through to his son that nothing is impossible, and the message was not lost on him. Rick managed to finish high school and even graduated in Special Education from Boston University. He managed to lead an autonomous life in his own apartment and worked at Boston College.

出典 Albert Liebermann. *Ganbatte!: The Japanese Art of Always Moving Forward*. Tokyo: Tuttle publishing, 2021（一部改変）

<注>

leave out：除外する

exemplification：実例

cerebral palsy：脳性小児まひ

get through：理解させる

be lost on：理解されない

問題

問1 下線部①を日本語に訳しなさい。

問2 下線部②はどのようなことを指すのか、日本語で具体的に述べなさい。

問3 下線部③を日本語に訳しなさい。

問4 下線部④に対する筆者の答えを日本語で述べなさい。

問5 下線部⑤はどういうことを言っているのか、日本語で具体的に述べなさい。

2 次の英文を読んで、以下の問いに答えなさい（固有名詞はそのまま使用してよい）。

There are different kinds of language teachers: those who teach what is usually called ‘mother tongue’, the dominant language of a society; those who teach a dominant language in a society to newcomers to the society for whom it is a ‘second language’; those who teach a language spoken in another country and learnt only in schools, colleges and universities — a ‘foreign’ language. All these teachers are handling one of the most important elements of humankind, for it is language that is one of the distinctive features of being human, one of the most important facilitating factors in the formation of human social groups, and at the same time one of the factors that separates groups from one another.

Language teachers have important responsibilities in ensuring that learners of any age — from kindergarten into schools and on into adult, lifelong education — acquire the practical skills of the languages they need. This includes reading and writing the language(s) they otherwise acquire naturally in their environment — their ‘mother tongue(s)’ or ‘first language(s)’ — because, although they will inevitably learn to speak, reading and writing do not come naturally and often do not come at all without great effort and application. Language teaching also includes teaching the practical skills in a language that are needed for a short term business or pleasure trip to another country. Teaching ‘mother tongues’ and ‘languages for business’ are two extremes of a continuum of skills and knowledge, and there is every kind of language teaching in between.

At the same time, language teachers are concerned with values, for values are inherent in any kind of teaching whether teachers and learners are aware of them or not. The teachers of ‘mother tongue’ have to reflect on what the language means for those who speak another language at home. They have to think about how their teaching is not only focused on practical skills but also creates a sense of living in a specific time and place, in a specific country, in a specific nation-state; language and identity are inseparable. Those who teach second and foreign languages have to think about how the language is offering a new perspective, a challenge to the primary language of identity, and a different vision of the culture(s) in which they live and have taken for granted.

出典 Michael Byram. *From Foreign Language Education to Education for Intercultural Citizenship: Essays and Reflections*. Clevedon: Multilingual Matters, 2008 (一部改変)

<注>

newcomer : 新しく来た人
application : 多大な努力
inherent : 内在している
nation-state : 国民国家（言語・伝統・歴史の国民的同一性を基盤とする国家）

facilitate : ～を容易にする
continuum : 連続体

問題

- 問 1 下線部①の具体例として適切なものを次の(1)～(4)の中から 1 つ選び、記号で答えなさい。
- (1) English in Japan (2) French in Japan
(3) French in France (4) English and French in Japan
- 問 2 下線部②はどのような理由のためか、日本語で具体的に述べなさい。
- 問 3 下線部③を日本語に訳しなさい。
- 問 4 次の(1)～(4)のうち、本文の内容に合うものを全て選び、記号で答えなさい。
- (1) 言語教師は、言語とアイデンティティが切り離せないものであることを理解して、実践的な技能に焦点を当てた効果的な教育をしなければならない。
- (2) 言語教師は、特定の時間と場所、特定の国、特定の国民国家で生きていることを、生徒たちが授業の中でどのように認識するのかを考えなければならない。
- (3) 母語の教師は、その言語が家庭で別の言語を話す人々にとって何を意味するのかを考えなければならない。
- (4) 外国語を教える人は、その言語が学習者に新しい視点を提供し、学習者の性格を変化させる可能性があることを理解しなければならない。

2025年度 一般選抜4期 1科目型（3月12日）

数学Ⅰ・A

※問題は次のページです。

注意 1 : 問題は全部で 3 題, 解答用紙は 3 枚ある。問題 1 の解答は **No. 1**, 問題 2 の解答は **No. 2**, 問題 3 の解答は **No. 3** の解答用紙に記入すること。

注意 2 : 解答にあたっては, 最終的な答えだけでなく, その詳しい説明と計算過程についても必ず「解答欄」に書くこと。

注意 3 : 作図を要する問題の解答にあたっては, 定規, コンパス, 分度器等の道具を使用しないこと。

注意 4 : 円周率を用いる場合には π を用い, 3.14 などの近似値に置き換えないこと。

問題 1

以下の 2 次方程式を解け。

(1) $2x^2 - 3x - 4 = 0$

(2) $x^2 - x = 12$

(3) $3x^2 + 9x - 7 = 2x - 1$

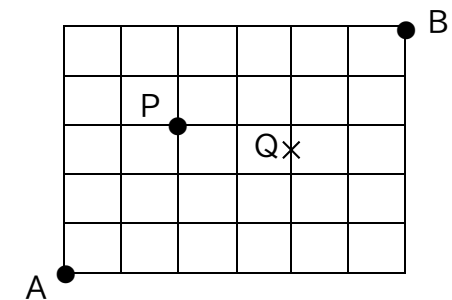
問題 2

$\triangle ABC$ において, $AB = c$, $BC = a$, $CA = b$ とする。次の等式が成り立つとき, $\triangle ABC$ はどのような三角形か。

$$a \sin A + b \sin B = c \sin C$$

問題 3

下図のような道路において, A 地点から B 地点まで行くとき, 次の問いに答えよ。



- (1) 最短経路は何通りあるか。
- (2) P 地点を通る最短経路は何通りあるか。
- (3) Q 地点が通れないときの最短経路は何通りあるか。